

令和6年度 学校評価書	学校名 : 和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名 : 竹内伸之
-------------	------------------------------------

目指す生徒像	○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成 ○平和を愛し、人権やルールを大切にする人間愛に満ちた生徒の育成 ○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成
--------	--

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

本年度の重点目標 ○開かれた学校 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	・家庭、地域との連携を図るため、教育活動を広報する。 ・生徒、保護者、地域の声を反映させ、特色ある教育活動を展開する。 ・全教育活動、教育場面を通して、自他の「命」を最優先して尊重する態度を育てる。 ・基本的生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。 ・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。 ・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。
--	---

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価
安全教育・安全管理 登下校時の交通安全意識の向上のため、年に1度、交通安全講話を行っており、学校生活を軸にした安全意識の向上や命の尊さについて、生徒が主体的に意識できる環境づくりを行っている。 加えて、東南海地震に備えた防災訓練も学校全体で行うことで、防災意識の向上にも取り組んでいる。	生徒指導部が主となり、交通安全講話における特設LHRの実施。また、常設のLHRの時間での地震対策における避難訓練では、生徒・教職員全体で行い、地震の後の津波に対応する形での訓練も同時に取り入れ、避難場所の違いなども認識させた。このことで、生徒個人に、主体的でかつ、即時の判断力の育成と向上を促す。	交通安全講話を実施し、実際に起こった事故を教訓に自転車における交通安全の向上を適宜促し、各種行事及び式典を安心かつ安全に執り行うことができた。 生徒一人ひとりが、学校生活を安心・安全に送ることができるよう各分掌や管理職と情報共有を行い、学校全体で防災教育(避難訓練)に取り組むことができた。	生徒たちが心豊かな学校生活を送れるよう、学校行事等を創意工夫し、命の尊さ、自尊感情の向上、他者を思いやり行動する共助の心を育むことができるよう取り組む。 防災教育については、近隣の消防署などの指導助言を受けながら指導し、東南海・南海地震に備え、避難訓練などにも色々な工夫を加味していく。	A	地域の豊かな人的資源を活かし、幅広い見識が習得できるよう学校行事等において創意工夫する。 また、生徒たちが安心・安全な学校生活を送るために、危機管理、危機意識の向上や防災教育の充実を図り、継続して取り組む。 そして、定時制教育が地域に理解されるよう、ホームページ等を活用して、情報発信を行っていく。	・近いうちに起こると言われている東南海地震を見据え、今後も引き続き防災教育に取り組み、一人ひとりの防災意識の向上に努めてください。 ・自転車もルールが厳しくなっているので、引き続き指導をよろしくお願いします。 ・ホームページの活用に際し、全日制⇄定時制の相互リンクが出来る仕組みがあればどうでしょうか。現状は定時制→全日制のみになっているようです。 ・法律遵守とコンプライアンスの教育を。
生活指導 日常生活はもとより、学校生活全般で、他人との接し方に課題を抱える生徒や、学校に毎日登校するのが、困難な生徒が多く見受けられる。自分の考えや思いを、うまく表現できず、生徒間のトラブルや自身で悩みこんでしまうことが、度々見受けられる。教職員間の連携を十分に活用し、生徒とのコミュニケーションを図る中での、細やかな支援・指導が必要である。	生徒各個人が抱える課題に対し、教職員だけでなく、SC、保護者、外部機関など一体となって連携強化を図りつつ、チームで対応することが重要である。多角的な視点で捉え、生徒個人が主体的に問題解決や問題自体に向き合えるよう支援を行うことが大切である。同時にSNSにおける、コミュニケーションの便利さと曖昧さをしっかりと理解させ、適切なSNSにおける人間関係を理解させる。	生徒個人が抱える課題に対応する形で、担任や教職員だけでなく、SC、保護者など連携を図りつつ、多様化する生徒の個性に合わせた指導を行うことができた。特に、教科指導においては、個人に合わせた授業形態の展開を各教科において創意工夫がなされていたと思う。さらに、個々のコミュニケーションをうまくとっている先生が多く、生徒にとっても、話しやすい学校環境であったと思う。	個々の生徒の状況を理解を深める努力を引き続き行っていく。生徒の個性に合わせた、対応が常時可能な形にするためには、各生徒とのコミュニケーションが非常に重要である。学校生活のあらゆる場面で、教職員が積極的な声掛けから始めていくことが大切。そのうえで、人間関係を構築し、生徒のほうから些細な日常的な会話ができる信頼関係を構築していく。	B	これまでの生徒対応の形を踏襲しながら、特に新入生の対応に多角面な注意を払っておく。入学前の各家庭からの申告があった場合、必要に応じて、教職員での共有を図っておくことも重要な事項の一つである。また、中学校サイドから送られる連絡事項についても、保護者からの申告と同じことが言える。	・生徒一人ひとりの個性を理解したコミュニケーションの構築を今後も引き続き行ってください。 不登校経験者が毎日登校できる環境づくりを今後も継続していってください。 ・引き続き積極的な声かけをしていただき、生徒とコミュニケーションを上手にとっていただき、学校外でのイベントにも参加をつなげてほしい。 ・ボランティアへの参加のすすめ(社会性やコミュニケーション向上)
学習指導 本校入学前に不登校であったり、学校を休みがちであった生徒が依然として多く、そのような生徒が積極的に学習活動に取り組めるよう、適切な対応が必要である。また、多様な個性を持つ生徒たち個々に対応した指導が必要である。 生徒にとって分かりやすく理解が深まる授業の実現をめざす。	学び直しの観点から基礎学力の定着を目指して、「反復練習」「授業の工夫」を基礎とした授業展開を行いながら一人ひとりの生徒の力を伸ばす取り組みを進めている。 また、少人数のクラス構成を生かし、個々の生徒とコミュニケーションを取りながら、生徒の関心・意欲を増進させるような授業展開を心がける。欠課時数が増加傾向にある生徒は、随時指導を行い、家庭と連絡を密にして、細やかな指導を行う。	基礎・基本の定着を図るために、生徒の特性に合わせた指導方法や教材開発を行い、個々の生徒の興味・関心等に応じ、きめ細かく指導・支援することができた。特に、電子黒板やプロジェクト等のICTツールを活用し、授業内容や課題を視覚化した。結果、授業の効率性が向上し、きめ細かい授業が展開できた。また、授業で得た知識や技能等が資格取得につながり、生徒の学習意欲が向上した。	今後も基礎・基本を定着させるための手法や内容を検討する必要がある、個々の生徒の学力や特性を見極めながら、全職員の共通理解のもと、指導方法や教材開発を行い、協働体制を整える。特に個々の生徒の可能性を引き出せるように、少人数によるきめ細かな指導の充実を図るなど、切れ目のない指導を心がける。また、学校生活を意欲的に取り組めるように生徒の出席状況、授業態度、生活態度及びその変化等の情報共有を教員間で十分行う必要がある。	A	個々の生徒の個性や学習状況に考慮しながら、個に応じた指導を継続していくことが重要である。生徒の実態把握と相互理解を深めながら、生徒の興味・関心に応じた指導方法や指導体制の工夫改善が必要である。さらに、ICTの活用は、今後の学習指導には必要不可欠であり、使用する環境整備を教員間で共有するためのシステム作りを整える必要がある。	・検定試験三冠表彰を目標にし、達成感、充実感を引き続き生徒に味わせて欲しい。 ・ICTの活用、個々に応じた学習教材の工夫等において、今後も引き続き生徒の学習意欲の向上に取り組んでください。 ・定時制は特に目標とする出口(進学や就職)に向けての学習が一つの方法ではないか。
進路指導 年度当初の調査では、卒業予定者4名全員が学校幹旋での就職を希望している。うち3名は応募前企業ガイダンスにも参加予定であり、進路実現に向けてよい傾向であるといえる。 卒業者が少ないので進学希望者が皆無であることは致し方ない面もあるが、キャリア教育のバランスの観点からは課題ともいえる。	昨年度からの課題としてキャリア・パスポートの活用状況改善が挙げられているので、書式を簡略化して対処してゆきたい。 併せて、昨年度から履歴書の記入もすべてPCで記入できることになったので、ICTを活用して早いうちから自己PRの機会を設けたい。	2回の進路LHRIにおいて、動画の視聴とそれに基づいてワークシートの記入を行なわせた。記入項目を簡略化し、動画の内容と具体的に呼応する設問とすることで、単なる自由記述よりも記入状況が改善された。 ただ、これをキャリア・パスポートの改訂に結びつけるには、年度当初に視聴させる動画が具体的に決定している必要があり、さらに検討する必要がある。	進路指導におけるICT活用を、 ①公的機関の支援サイトの利用 ②応募前企業ガイダンスの動画視聴に絞り込み、その内容に密着した記入欄を設けたキャリア・パスポートを作成する。	B	新たな書式でのキャリア・パスポートを活用し、進路LHRのみならず、保護者も交えた進路指導を充実してゆきたい。	・キャリアパスポートの取り組みや外部機関との連携をより充実させ、一人ひとりの進路目標を具体化するため、今後も引き続き生徒一人ひとりに寄り添った進路指導を継続して欲しい。 ・キャリアパスポートの改訂で効果があったのは良かったと思います。 ・まだまだ問題点があると思いますが、引き続き検討をお願いします。